高校教員の「探究的な学びの実践コミュニティ」の創出を目的とする東京学芸大学・高校探究プロジェクト（https://g-tanq.jp/）では、 2021 年 12 月にキックオフイベントを開催し、これまで各教科における探究的な学びや「総合的な探究の時間」などの教科横断の探究の双方を射程に入れ、さまざまなカタチで、ワークショップやイベント等を実施してきました。これまでに共創していただいた連携教育委員会の指導主事の方からの実践報告や授業研究ワークショップにご参加いただいた方とのパネルディスカッションを通して、「高校・授業文化のアップデート」をテーマとし、みなさまとともに考え、対話し、次なる一歩につなげたいと考え、「瞳輝く学びの実装化」オンラインイベントを開催しました。

全国から、高等学校の先生をはじめ、高校生、民間企業等さまざまな立場の、多くの皆様からお申し込みいただき当日を迎えました。

オープニングでは、本プロジェクトの西村リーダーから「『探究』とは、生徒の想いの追究、『探究的な学び』とは、『探究』過程を通じた学びである」と定義づけをし、「入った学校、出会った先生による学びの質の差を小さくしたい」そのための「探究・探究的な学びの実装化」を目指して活動してきたプロセスを共有し、６年後の構想をお伝えしました。

その後、３年間連携して取り組んできた北海道教育庁高校教育課の上野昌生主査より、「S-TEAM 教育推進事業」における「授業研究セミナー」と「探究チャレンジプロジェクト」についてお話しいただきました。連携２年目となる大分県からは大分県教育庁高校教育課の瓜生田浩司指導主事より、「指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進」と「地域における個別最適な学び推進事業」についてご報告いただき、昨年度、本連携を牽引してくださった塩月前指導主事、今年度取り組みを推進いただいた外国語担当の山本指導主事からもコメントを頂戴しました。

続いて、昨年度実施した「指導主事等対象のオンライン対話」をきっかけとして実現した「地域を越えた共創・協働型研修」について、広島県立教育センターの砂岡良祐指導主事、広島県教育委員会の長野真美指導主事、そして、青森県総合学校教育センターの小関央高指導主事よ

り、実現に向けたプロセス、いくつも存在した壁の越え方、実際の全４回の研修の様子をご報告いただきました。最後に、「探究的な学びの実現に向けた協働・共創プロジェクト」の次年度構想をお話しいただき、「わくわくメンバー」を募集されました！（下記写真参照。関心をお寄せいただける方は事務局までお問い合わせください。）この取り組みを通して、「令和の教員研修」は、「本質的なウェルビーイングに迫る」「エージェンシーを活性化する」「価値観をアップデートする」といった３つが柱になると確信しました。

さらに、高校生の生の声をもとに、高校教育のエコシステムに挑んだ「私たちの『探究』をつくろうプロジェクト」については、今年度４月から継続的に開催している「探究ミニセミナー＆交流会」を中心に、探究過程を対話できるコミュニティの創出について報告しました。第１回に話題提供いただいた「合同会社あしたの学校」の C00 岡田羽湖さん（国際基督教大学４年）からは、探究活動においてポイントとなる課題設定における「視座」の上げ下げの重要性についてお話しいただき、先生方ご自身は「総探」に対しての視座はどうですか？とメッセージを投げていただきました。

また、入試対策か探究的な学びか、といった二項対立をやめ、高校教育のエコシステムに挑んで実施したＺ会×東京学芸大学附属高等学校コラボセミナー「教科の授業の探究化」について、Ｚ会の花岡正司氏より、入試が変わってきていることは理解していても学校現場の状況は見えていなかったが、この取り組みを通して業種を越えて共創する必要性を実感したとお話しいただきました。

パネルディスカッションでは、各教科で、公募で募ったメンバーで授業研究チームを編成し、オンラインベースで実施してきた授業研究ワークショップにご参加いただいている方をパネリストとしてお迎えしました。

国語科チームからは、チームリーダーの聖ドミニコ学園中学高等学校の西亀咲江先生、数学科チームからは教員対象ワークショップＤチームの滋賀県立守山高等学校の森野高広先生と指導主事・各学校リーダー向けワークショップにて授業研究を推進するための指導助言者/ファシリテーターとしての視点や手立てを学ばれている横浜市立金沢高等学校の斎藤真彦先生、地歴科チームからは、研究授業を実践された自修館中等教育学校の海老名豊昭先生に、それぞれのチーム構成の特徴や参加した理由、地域を越えたメンバーとの授業研究の取り組みを通してのご自身や授業の変容について対談していただきました。地歴チームは、小中高の系統性を意識して取り組んでいることから、小学校教員として参加されている川崎市立古川小学校の倉嶋結実子先生より、ここでの学びを小学６年生の歴史学習にどのように活かしているか、小学生の感想等と合わせてご紹介いただき、高校の授業文化のアップデートに向けて新たな視点をいただきました。

話題提供やパネルディスカッション中のチャットでは、それぞれの活動に参加された方々が、感想を打ち込んでくださると同時に、お互いのご実践に共感されたり、刺激をうけられたり、盛り上がりました！

最後に、ブレイクアウトルームを設定し、「日本の高校文化・授業文化がアップデートされた学校とは？生徒にとってどんな学びが実現されている？」をテーマに対話していただきました。短い時間設定となりましたが、様々な話を聞いた後、「アップデートされた学校」や「生徒の学び」を想像する時間は、ここまでの話を整理し思考を深める時間になったというお声をいただきました。さらに、ブレイクアウトルームで、高校生が、しっかり考え、自分の想いを発言されている姿に触れ、身が引き締まる思いをされた先生方が多かったようです。

当日の話題提供やパネルディスカッションの内容については、次号のニュースレターにてご紹介いたします。

以下、参加者から頂いた感想です。

＜高校生の声＞

・たくさんのお話を聞いて、生徒の立場からもいろいろ考えることができました。本当にすごく感動しました。
・島根県から参加した高校２年生です。たくさんの学びがありましたが、話の内容よりも、全国にはこんなにもたくさんの先生が熱や思いを持って、授業や探究活動を創っているということを知れたことに意味があったと思います。ブレイクアウトルームで他県の先生ともお話できてめちゃくちゃ嬉しかったです！
・探究×教科の融合の現状がどのようなものか生徒側からよく分かりました。教員の改革と共に生徒の変容を捉えていくのも大事ですね。教科同士の繋がりも気になります！
・イベントの最初に西村先生が仰っていた「入った学校、出会った先生による学びの質の差」について、私自身高校時代に苦しんだ経験があります。今現在も、自分より質の高い教育を受けてきた人達と同じ社会に出ることに不安を感じることもあります。本日パネルディスカッションで登壇してくださった先生方をはじめ、このイベントに参加している先生方が率先して、学校の授業を少しずつでも変えていってくだされば いいなと思いました。
・大分県の「生徒を対象に探究についてお話しする」といった取り組みや、パネリストの先生が「授業づくりについて思わず HR で生徒たちに話してしまった」といったお話を聞き、生徒たちも「探究」について学ぶ場があってもいいだろうし、教師も生徒に対して授業づくりの面白さや難しさを話してもいいのではないかと思いました。教師と生徒のやり取りの中に、「探究」や「授業づくり」に関する話題があったら楽しそうだなと思います。

＜教員・一般の方の声＞

・社会の在り方・学び方が変化してきているのに、高等学校の授業が変化していないと言われている。現場の教員の意識もだいぶ変化してきている。あとは、どのような目線合わせをして実装していくかが、大きなカギを握っていると感じる。そういった点で、広島県と青森県の取組、北海道の取組み等は非常に参考になる事例であった。（高校教員）
・若い人たちが意欲的に関わっている姿に教育の将来の明るさを感じました。（高校教員）
・本日、先生方の取組を拝聴して、素直に感じたことは二つです。一つは、自身に必要なもの

は授業デザインだということ。もう一つは、近くの仲間と組織的な取組をしたいということ。不足や不満から考えるとワクワクしないので、今の状況や取組の価値づけから始めようと思えました。（高校教員）

・今日も高校生の変容の様子や実際の高校生の考えを聞いて、生徒たちが潜在的に持っている力を私達教員がわかっていない（または低く見ている）現状があるのではないかと感じました。まず教員側が生徒たちを有能な学び手との認識を持った上で、一緒に学ぶ姿勢を持ちながら、教育のプロとして何ができるのかということを深掘りしていくことが、高校・授業文化のアップデートにつながるのではないかと考えました。もっと生徒たちの思考が揺さぶられ、価値観が変わり、世界が広がるようなそんな授業が良い授業なのかなと思いました。（指導主事）

・「わくわく」が大切だと感じました。生徒も、先生も、そして子供を見守る親も。
わくわくするような授業を実現していくには何が必要なのかを共に考えていきたいと思います。わくわくする授業なら、子供も家に帰って家族に話してくれるでしょう。わくわくのお裾分けがあれば、親が子供を追い詰めてしまうようなこともなくなるのかな、と思ったりしました。（一般）

３月１２日（火）に、「探究ミニセミナー＆交流会」の最終回を開催いたします。詳細は、Webページにてご案内いたしますので随時ご確認ください。https://g-tanq.jp/miniseminar

【問い合わせ先】
東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構・高校探究プロジェクト事務局
e-mail: g-tanq@ml.u-gakugei.ac.jp